式辞

遠くの山並みの残雪がやわらかい陽に輝き、澄んだ大気の中に春の息吹きを感じ取ることができる季節となりました。この佳き日に、ご来賓の皆様には大変ご多用の折り、卒業証書授与式にご臨席たまわり、厚く御礼申し上げます。

次に、保護者等の皆様方に教職員を代表してお祝い申し上げます。一昨年より、成人年齢が十八歳となりましたので、卒業生の皆さんのほとんどは成人です。従いまして、先ほど「保護者の皆様」では無く、「保護者等の皆様」と申し上げました。しかしながら、いつの時代であっても、法律が変わっても、ご家族の皆様の子の成長を願う気持ちは変わらない最も深い愛情です。この三年間を今振り返れば万感の思いが去来することでしょう。これまでの皆様のご労苦に深甚なる敬意をあらわします。

さて、全日制二二九名の卒業生の皆さん、あらためてご卒業おめでとうございます。卒業をお祝いするとともに、今日まで三年間、勉学に、クラブ活動に、生徒会活動などに励んできた皆さんの努力を讃えたいと思います。皆さんが文化祭などの学校行事で見せてくれた活力のある姿、クラブ活動で見せてくれた努力と協力をすることができる姿、学業で見せてくれた粘り強さなどは、皆さん自身がお互いに良く見ているし、保護者等の皆さんも、PTA 会報や学年通信、進路通信、本校のウェブサイトなどでご覧になっていることと思います。今日は、そういった大きなイベントの話では無く、一つの小さなエピソードをお話ししたいと思います。今年の一月、学校が始まって間もない時です。私が階段を歩いていると、踊り場でばったり会った生徒が「あ、先生、地震大丈夫でしたか?」と声をかけてくれました。私はとても驚きました。先生から生徒に「地震があったけど大丈夫でしたか?」と声をかけることは良くありますが、生徒から、しかも授業もクラブも教えていない私に声をかけてくれるということは、普通はありません。ばったり会った私に声をかけてくれるとは、何て優しい生徒だろうと、印象に強く残りました。今お話ししたのはほんの一つの例ですが、他にも色々な場面で皆さんの優しさを感じることがありました。

もう一つ、これは皆さんのエピソードではありませんが、お話をしたいと思います。「yoasobi」という音楽ユニットが、十八歳の若者を千人集めてイベントを行いました。そのイベントに参加を希望した人たちが、自分の思いを動画にして応募したのですが、その中にピアノを演奏する事が好きな女性がいました。その人は何年か前に病気で片腕が動かなくなっていましたが、ピアノを演奏する事を諦めませんでした。その人は片手で右手パートの演奏をして動画に撮り、次に同じ手で左手パートの演奏をして動画に撮り、それを合成して一つの曲の動画を作って応募していました。その人の困難を乗り越える姿には、観ていた誰もが感動したことと思います。考えてみますと、何年か生きていて何の困難も無かったという人はいないと思います。今の話しのピアノの人のようにはっきりとした誰からも分かる困難では無いかもしれませんが、皆なにかしらの困難を乗り越えていると思います。特に長野吉田高校は文武両道を掲げ、高いハードルがいくつもある学校です。今日卒業する皆さんは、全員が、この三年間で幾つもの困難を乗り越えてきたことと思います。卒業生の皆さんは、そんな、困難を乗り越えてきた自分を誇りに思い、活力があり、粘り強く努力したり協力をする事が出来、優しさを持った仲間たちとこの長野吉田高校で学んだという事を誇りに思い、この学校の同窓生になったのだという喜びを胸に持ち、また卒業生同士のつながりや同窓生の繋がりを大切にしながらそれぞれの人生を歩んで欲しいと思います。

皆さんの洋々たる前途での活躍を祈念し、また、ご列席くださいましたすべての皆様のご健勝をご祈念 申し上げ、式辞といたします。

令和六年三月一日